

全教栃木 教育新聞

発行 全栃木教職員組合（全教栃木） 全日本教職員組合（全教）に加盟しています。

〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30 TEL 028-653-0353 FAX 028-653-1579

http://www.zenkyotcg.org E-mail info@zenkyotcg.org

修学旅行等の勤務時間の割振り変更を！

前号でもお知らせした養護教員アンケート。県内の全中学校及び全県立学校合計240校に送付し、44人の養護教員から返送されてきました。

行われていない割振り変更！

修学旅行の長時間にわたる指導（拘束時間）の実態を、このアンケートで改めて確認することができました。

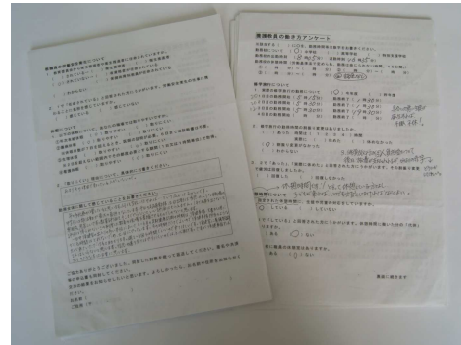
中学校の回答数30人のうち、初日、2日目の指導時間が17時間を超えた学校が8割を超えました。3日目も6割の学校が12時間を超えていました。

高校の回答は12人と少なかったですが、初日から3日目まで、16時間を超える学校が7割を超え、最終の4日目もすべての学校が11時間を超えていました。

特別支援学校の回答は2人だけでした。中学校や高校に比べて、指導時間は短い傾向にありましたが、それでも3日間すべて12時間以上の指導時間になっていました。

こうした長時間勤務であるにもかかわらず、割振り変更があったのは中学校の3校だけでした。高校や特別支援学校では1校もありませんでした。「1日の勤務を9時間割り振る」という県の規程は、有名無実化しているばかりでなく、県立学校ではやはりこの規程自体が周知されていないことが浮き彫りとなりました。

こうした勤務実態は給特法に違反する



日頃感じていることをびっしり書いたアンケートも

ことは明らかです。これまでの規程も改め、指導の実態に見合った勤務時間の割振り変更を行うべきです。

日頃の思いも寄せられました

○栃木県以外で勤務した経験があり、勤務時間の違いに戸惑った。8時出勤は少し厳しいと感じ、また修学旅行等宿泊を伴う勤務で「代休」のないことに驚いた。他県勤務のときは1泊で半日、2泊で1日の「代休」が決められており、必ず取るように指導されていた。養護教諭は児童・生徒が病気やケガによって病院にかかる際も、日夜関係なく付き添わなくてはならない。2泊だとかなり長い時間拘束されてしまう。栃木県の先生方が少しでも働きやすくなることをお祈りしています。

このアンケートでは、日頃の勤務に対する思いも書いてもらいました。紹介した文章にもあるように、他県では割振り変更は当たり前のこととして行われているのです。この先生は「栃木県の先生方が少しでも働きやすくなることをお祈り」してくれています。本来ならアンケートに答えてくれた養護教員の多数が加入している職員団体が、具体的に要求していれば解決できた問題だったのです。

寄せられた意見の一部を紹介します。

アンケートで気持ちが楽に…

○生徒の体調不良で、過去に2回病院に付き添った。病院の待合室で朝を迎えたり、私の部屋で看病したことも。治療費を立て替えたこともあった。

引率状況にもかかわらず、手当もほとんどないような状況に疑問を感じている。お金のことばかりになって恥ずかしいのですが、前もって旅行会社に旅行代金を自分たちで支払うために現金を準備して支払い、結局旅費として手元に戻ってくる金額は、自分で支払った額に満たない金額です。（何なんでしょうか…。）

「今年もまた修学旅行か…」と考えると、心が病みます。引率者だけがなぜこんな負担を背負わなければならないのでしょうか。

長文失礼しました。こちらのアンケートに書かせていただけただけで、少し気持ちは楽になりました。ありがとうございました。

部活動も教員評価の対象？

○年々多忙感が増していると思います。学校に任せれば…という流れはおかしいです。

中学校は部活動が最大の負担となっています。平日の超過勤務、土日出勤は当然のような職場の雰囲気、息苦しいです。教員評価もそこまでやらないといい評価はもらえません。1年で成果を出さないと評価を得られないこの制度は、教育の現場を萎縮させるものでしかないと思います。

一日中保健室の出入りの多い本校において、4～6月の定期健康診断の時期は、保健事務・文書処理にかける時間はとれないため、土・日にやっています。その時期だけでよいので保健事務担当のような方が来てくれると助かります。週2～3回、4時間でいいので来てほしいです。

○朝は早くから、夜は遅くまで働くことが美德とされている風潮が消えない。中学校では部活が全てである。

○養護教諭の部活動顧問制度に負担を感じています。

中学校の先生方からは、部活動の顧問を任されることに負担を感じているという意見が多く寄せられました。これらの意見も、これからの交渉で伝えていきたいと思います。

アンケートに協力してくれたみなさん、ご協力ありがとうございました。

全教組織担当者会議に栃木の取り組みを報告！

報告したのは、2人の女性臨採者！

全教は9月24日、「職場活動の活性化、組織の拡大・強化をめざす組織担当者会議」を開催しました。栃木からは芳賀地域の小学校に勤務する2人の臨時採用者が参加しました。2人の報告を紹介します。

9月24日に全国町村会館で開催された「職場活動の活性化・組織の拡大・強化をめざす組織担当者会議」に、同じ職場の先生と出席してきました。全教に加盟する全国の組織から約100名が集まり、活発に発言がなされていました。「あ、そのアイデアいい！」と思うようなものもあり、とても勉強になりました。

2人でマイクの前に立ち、全教栃木の取り組みも発言してきました。内容は全教栃木の活動の様子、採用試験学習会を



輪・和・WAの参加者

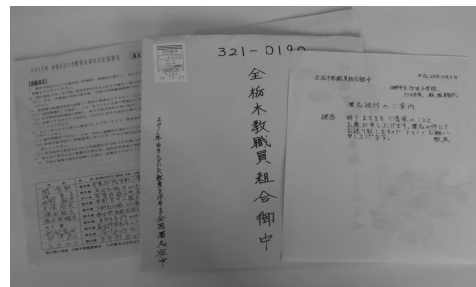
通じて青年組合員が増えていること、「輪・和・WA!!の会」で青年組合員が学び合ったり、交流を行っていることなどです。

課題としては、青年の活動をさらに発展させていくためにどうしたらよいか、少人数ゆえの役割分担の重要性などを挙げました。

「教育全国署名」にPTAが協力！

教育予算の増額、全ての学校で行きとどいた教育を求める「教育全国署名」（提出先は国会と県知事・県教育委員会）。今年度も県内の全公立学校のPTA会長に署名用紙を送り、協力をお願いしています。これまでに50校以上から、1000筆を超える署名が送られてきています。

佐野市内のある小学校のPTAでは、署名用紙を増し刷りし、手紙まで添えて署名を送ってくれました（右の写真。封筒も）。



署名用紙は組合ホームページにもUPされています。多くのみなさんのご協力をお願いします。

全教栃木加入にあたたかい拍手も！

終わりに全教栃木に入ってよかったなと思ったことを発表すると、会場の皆様から、あたたかい拍手をいただきました。夜は、全国教育文化会館に移動して、「沖縄から憲法を考える 学習のタベ」に参加しました。講師はやんばる統一連事務局長の上野 郁子さんでした。講演は「沖縄から憲法を考える-名護のたたかひの現場から」と題して、写真と

ともに、沖縄の歴史を振り返りながら、現在までの激しいたたかひの様子を教えてくださいました。

綺麗な沖縄の海で…、村民が利用する県道で… 私たちは、もっともっと沖縄のことを知る必要があると感じました。「一刻も早く沖縄に行きたい!」、「みんなで沖縄に行って、学習しよう!」2人とも、沖縄への気持ちが強まりました。貴重なお話をお聴きすることが出来て、本当によかったです。

全国学力調査の結果について、県教育委員会で議論！

県教委は9月29日、今年度の「度全国学力・学習状況調査」（全国学力テスト）の結果を公表しました。この結果は「小6算数が最下位」（下野新聞9/30付）などと報じられました。

この結果を受けて、10月5日開催された県教育委員会でも取り上げられました。

○岡直樹委員

（県教委が基礎・基本のパワーアップシートを作成するとの報告に）シートだけで成果は上がるのか。結果を軽んじてはいないが、一喜一憂するのはいけない。数字が一人歩きするのはよくない。

○吉澤慎太郎委員

先生方はショックなのでは？教科ごとの話し合いは出来ているのか？

○工藤敬子委員

隠岐（長崎県）は学力が高い。子どもたちは学校に残って教えあっている。結果について、大人がキリキリするのではなく、子どもたちの学び合いが必要。これはコミュニケーション能力も高める。

一人一人ではなく、チームワーク。子ども同士が高め合える仕組みを。

○宇田貞夫教育長

工藤委員の意見は栃木の「いきいき栃木っ子3あい運動」そのものである。

○陣内勇次委員

PDCAはPSA。Sはスタディー。学ぶことを学ぶ。学ぶことの姿勢が大切、原点を考えてほしい。

○伏木由佳子委員

子どもたちは部活動にやる気がある。補習をする部活動があってもよいのでは？授業とは異なる機会があってもよい。学力向上のために市町指定をしているが、先生達もどん欲になってほしい。

一方、田村一学力向上推進室長は「小学校は落ち着いていないという調査結果がある。このことについて、新たな対応策を考えたい」と発言しました。落ち着いた学習環境にさせるには、やはり全年の少人数学級を実現させることではないでしょうか。35人学級の中学校からそういう声は出ていないようですから…。